

学校団体対象

School & College Dance

ルールブック

- 1.0版 2018.10.04作成
- 1.1版 2019.05.10作成
- 1.2版 2019.11.07作成
- 1.3版 2021.04.30作成
- 1.3.1版 2021.09.30作成
- 1.4版 2022.05.10作成
- 1.4.1版 2022.08.19作成
- 1.4.2版 2022.10.14作成
- 1.5版 2023.05.29作成/06.27更新
- 1.6版 2024.07.01作成

【対象大会】

- USA チアリーディング&ダンス学生新人大会（夏の大会）
- USA チアリーディング&ダンス学生選手権大会（夏の大会）
- USA Regionals（地区大会）
- USA Nationals（全国選手権大会）



A VARSITY SPIRIT BRAND

目次

P.2 ルールブックについて

P.3～6 競技規定

P.7～9 演技規定

■中学校・高等学校編成

P.8 Song/Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・Spiritleading部門

■大学編成

P.9 Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・Spiritleading部門

P.10～11 ダンステクニック・スキル・タンブリング
実施可能レベル一覧

※夏の大会に限り、下記部門に難度別(Novice/Intermediate/Advance)が設定されています

出場の際は必ずご確認ください

【Song/Pom部門・Pom部門】

P.12～13 審査対象外部部門 (Half-Time USA/Show-Time USA)

ルールブックについて

- 1) このルールブックは、学校団体対象 ダンス (SD) ルールブックです
- 2) 該当の大会及び更新時期は下記の通りです

該 当 大 会	更新時期(目安)
USA チアリーディング&ダンス学生新人大会 (夏の大会)	毎年5月～6月頃予定
USA チアリーディング&ダンス学生選手権大会 (夏の大会)	
USA Regionals (地区大会)	毎年9月～10月頃予定
USA School&College Nationals (全国選手権大会)	

※各大会シーズンの前にルールブックの更新をする予定ですので、出場の際は必ずご確認ください

※更新時期はあくまでも目安となり、1度更新された後も、変更・追記される場合がある

更新・変更・追記に関してはWebサイトにてご案内します

- 3) 各大会の詳細に関しては、必ず開催要項をご確認すること



A VARSITY SPIRIT BRAND

競技規定

全部門共通競技規定はなし

競技規定

【部門定義】

実施される編成/部門/難度/人数区分、及びチームの構成人数は、大会要項をご確認ください

部 門	難 度	部門の特徴	実 施 編 成		
			中学 校	高等 学校	大学
	夏の大会 のみ実施				
Song/Pom部門	Novice Intermediate Advance(※1)	学校団体の応援活動から派生した演技 同調性と視覚的效果、美しく正確なアームモーション、ポンを使用した技術、 ダンスの技術的要素と正確性が求められる	●	●	-
Pom部門	Novice Intermediate Advance	演技には、シャープ・クリーン・かつ正確なポンモーションテクニックを取り入れること グループの実施には、同調性、均一性、位置間隔が重要である 演技の振付には、以下ダイナミックな効果（音楽性、流れるような創造的な移動による 視角効果の演出、高低差、グループワーク、動きやスキルの複雑さ）が重要である 演技全体を通して、ポンを使用することが求められる ユニフォーム/コスチュームは、カテゴリースタイルを反映したものでなければならない	-	-	●
Hip Hop部門	-	演技には、グループ感とスタイルを含む、本格的なストリートスタイルの動きを取り入れること グループの実施には、同調性、均一性、位置間隔が重要である 演技の振付には、以下ダイナミックな効果（音楽性、流れるような創造的な移動による 視角効果の演出、高低差、グループワーク、動きやスキルの複雑さ）が重要である 衣装やアクセサリーは、ヒップホップカルチャーを反映した特徴的なものであること	●	●	●
Jazz部門	-	演技には、トラディショナルまたはスタイルのあるダイナミックな動き、強さ、連続性、存在感、 正確なテクニックを取り入れること グループの実施には、同調性、均一性、位置間隔が重要である 演技の振付には、以下ダイナミックな効果（音楽性、移動、動きやスキルの複雑さ）が重要である 演技全体の印象は、音楽性を活かすため動きのダイナミックさに変化をつけることを理解 した上で、生き生きとエネルギーで感動を起こさせるものであること ユニフォーム/コスチュームは、カテゴリースタイルを反映したものであること	●	●	●
Spiritleading部門	-	ハーフタイムのようにショーアップされた、スポーツエンターテインメント性のある内容が 求められる	●	●	●

夏の大会に限り、Song/Pom部門、Pom部門において、

ダンステクニック・スキル・タンプリングの難度制限（Novice/Intermediate/Advance）が適用される

出場の際は、演技規定の他に P11 ダンステクニック・スキル・タンプリング 実施可能レベル一覧を参照すること

※1 中学校編成 Song/Pom部門 Advanceは一部の大会でのみ実施（夏の大会開催概要参照）

1. 演技内容/スポーツマンシップ

- 1) 全ての振り付け・音楽・衣装は年齢相応であること
- 2) 下記の内容に該当する、構成や振付は禁止とする
 - ① 振り付けにおいて紛争や抗争をイメージさせる内容
 - ② 人を威嚇するジェスチャー
 - ③ 不快感を与える演出やメイクアップ
- 3) 全てのチーム/参加者は、イベントを通してスポーツマンシップに則って行動すること

【違反】3点減点

【違反】3点減点

【違反】失格

2. 音楽

- 1) 曲の歌詞は、全ての観客が聞くに相応しいものであること 【違反】 3点減点
大会当日、主催者に使用楽曲の歌詞内容に関して確認があった際は、歌詞内容を確認出来る資料の提出が求められる場合がある（原文、外国語の場合は和訳も含める）
- 2) 違法なダウンロードによる曲の使用不可 【違反】 3点減点

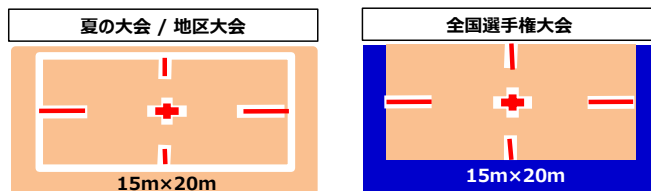
3. 演技フロア

- 1) 奥行15m×幅20mとする（フロアの仕様については、下記図参照）
演技フロアの外に踏み出すことによる減点はない

【夏の大会 / Regionals】フロア枠（白枠）と右図のような白、赤のラインを引く

【The PEAK / Nationals】フロアはベージュのスポーツコート内とし、右図のような白、赤のラインを引く

【映像審査】安全な場所を実施すること、フロア/センターのラインテープなどは必須ではない



- 2) 床の素材：原則、各体育館の床（The PEAK/Nationalsに限りスポーツコートを導入）
- 3) 演技に無関係なアイテムの演技フロアへの持ち込みは禁止 【違反】 3点減点
※Spiritleading部門のフロア置き道具などは除く 【例】チームのぬいぐるみ、手具として使用しない小道具など
- 4) メンバー全員で演技フロアに入場し、演技中の出入りは禁止 【違反】 3点減点
- 5) 手具・大道具は全て演技フロア内に設置すること 【違反】 3点減点
※使い終わった手具を投げ、演技フロア外に出るのは構わない
- 6) 演技者以外のフロアへの立ち入り、及び演技者以外が演技に関わる行為は禁止 【違反】 3点減点
【例】演技者以外の手具・大道具の設置補助や選手への指示出しなど

4. 演技時間・入退場

- 1) 演技時間：1分45秒以上推奨 2分15秒以内
審査対象外部門（Half Time USA/Show-Time USA）：2分00秒以内
演技時間計測のタイミングは、振りの動き出しまたは音楽の始まりで開始し、最後の振りの動きまたは音楽の終わりで終了とする
入退場は速やかに行うこと

【違反】 超過5秒以上は3点減点

5. 人数

- 1) チーム人数は3名からとし、大会によって人数区分（Small/Medium/Large/Super Large）が適用される部門がある
編成は各大会要項を確認すること
- 2) 演技人数が2名以下の場合、演技は可能だが表彰対象外扱いとなる 【違反】 表彰対象外
- 3) 演技人数が申請人数を超過した場合は、失格となる 【違反】 失格

6. 衣装/ユニフォーム

- 1) 全ての衣装は安全かつ、演技中に脱げてしまう、落下するなどがないようにすること
- 2) 丈の短い衣装は、タイツ着用が望ましい
- 3) 男性はシャツ（ノースリーブ可）を着用、前面のボタン・ファスナーをしめることが望ましい
- 4) 中学校・高校チームは、直立（腕を下ろした）姿勢時に腹部まで覆われた衣装を着用すること 【違反】 3点減点
出場部門（全競技部門、審査対象外部門も含む）に関わらず、このルールは適用される（大学チーム以外）
- 5) 上記の他に、Song/Pom部門は、衣装に規定がある 【違反】 3点減点
【Song/Pom部門】チアユニフォームを着用すること（必ず学校名・チーム名が記載されていること／素材不問）※パンツ不可
- 6) 履物は、Song/Pom部門に限り足裏全部を覆っているものを両足に着用すること 【違反】 3点減点
靴は各部門の演技内容に見合ったものを両足に着用し、摩擦や怪我の防止など安全面を十分考慮すること
裸足、靴下のみでの着用や床を傷つける靴は禁止
- 7) 衣装の一部としてのアクセサリは装着可 【違反】 3点減点
演技中に外れる、また肌や床を傷つける恐れのある金属製などのアクセサリの着用禁止

7. 手具/小道具

- 1) 小道具とは、振り付けの一部として使用されるもので、衣装に付いていないものすべてを指す
- 2) Song/Pom部門、Pom部門では、ポンは衣装の一部としてみなされる
【ポン定義】手で操作できる球状または房状のもの、肌等を傷つけない安全な素材であること
- 3) 手に持つ、または自立型小道具は全てのカテゴリーで使用不可（Spiritleading部門はこの限りではない）
<補足> 衣装の一部を小道具として使用可であり、体からはずして捨てることも可
- 4) 各チームは演技フロアに汚れを残さないこと（例：スプレーやパウダー、オイルなどの付着、残留）
- 5) 火や有毒ガス、動物など危険を伴う物の使用は厳重に禁止される

【違反】3点減点

【違反】3点減点

【違反】3点減点

【違反】失格

8. 演技の中断について

【演技順の変更】・・・大会当日、演技開始前に演技順を変更すること

【演技の中断】・・・「演技の開始」（音楽、または動作の開始）後に演技が止まること

- 1) 主催者は安全性や大会運営に支障があると判断した場合、演技順の変更および演技を中断する権利を持っている
- 2) 演技順の変更・演技の中断は原因によりそれぞれ下記の扱いとし、すべての判断は主催者が行う

① 不測の事態によるトラブル

音響機材や施設の不備等、チーム起因ではない不測の事態の発生でのトラブル

- a. 予定時間に演技が開始できなかった場合・・・演技順の変更の申請が可能
- b. 演技が中断した、または妨げられた場合・・・再演技の申請が可能

再演技は1回のみとし、予定の内容を1曲通して行うこと

ただし、主催者によって決定された演技中断以降の部分のみが対象となり、

演技中断前の審査内容はすべて反映される

原則、演技は開始からすべての演技を実施しなくてはならないが、すべての演技が行えなかった場合、そのチームの得点をどのように取り扱うかについては、主催者によって決定される

② 傷害によるトラブル

演技前・演技中に怪我人が発生した場合のトラブル

- a. 怪我による演技の中断を求めることができるのは以下の者である

- 1) 主催者（トレーナー・大会競技責任者）
- 2) チーム責任者（音響担当者）
- 3) 怪我をした本人

- b. 予定時間に演技が開始できない場合...棄権もしくは演技順の変更が可能かどうかは主催者が判断する

- c. 演技が中断した、または妨げられた場合、チームは棄権もしくは再演技が可能

再演技は予定の内容を1曲通して行うこと

ただし、主催者によって決定された演技中断以降の部分のみが対象となり、演技中断前の審査内容はすべて反映される

原則、演技は開始からすべての演技を実施しなくてはならないが、すべての演技が行えなかった場合、そのチームの得点を

どのように取り扱うかについては、主催者によって決定される

怪我をした選手は、第一に主催者側またはチームの医療関係者の承諾、第二にチーム責任者もしくは保護者からの承諾がなくては演技に戻ることはできない

③ チームの責任によるトラブル

道具・衣装・音源の不備やチームの責任によるトラブル

- a. 演技の中断を求めることができるのは以下の者である

- 1) 主催者（大会競技責任者）
- 2) チーム責任者（音響担当者）
- 3) チーム

- b. 予定時間に演技が開始できなかった場合...棄権、もしくは減点3点が課せられた上で、チームは演技順の変更の申請が可能

- c. 演技が中断した場合...棄権、もしくは減点3点が課せられた上で、演技直後であれば再演技の申請が可能

再演技の審査は1度審査した内容は破棄され、改めて1曲通しての審査となる

音源の不備など明らかにチームの責任によるトラブルが発生しても、チームが演技を続行した場合は審査も続行する

9. 違反について

- 1) 「競技規定」に記載されている事項に違反した場合は、各項目に明記された減点及び表彰対象外または失格の対象となる
- 2) 「演技規定」に記載されている事項に違反した場合は、1項目につき1点の減点が課せられる
- 3) 夏の大会において難度別が適用された部門については、「ダンステクニック・スキル・タンプリング 実施レベル一覧」記載内容から外れた実施に対して、1か所につき1点が減点される



A VARSITY SPIRIT BRAND

演技規定

■中学校・高等学校編成

P.9 Song/Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・Spiritleading部門

■大学編成

P.10 Pom部門・Hip Hop門・Jazz部門・Spiritleading部門

＜演技規定＞ 中学校・高等学校編成
Song/Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・Spiritleading部門

Song/Pom部門は夏の大会に限り難度別が適用されますので
P.11 ダンステクニック・スキル・タンプリング 実施可能レベル一覧を必ずご確認ください

項 目	内 容	
1.手具・道具	Song/Pom部門	ポンのみ使用可（男性は必ずしも持つ必要はない）※【補足】①参照 /ポン以外の手具・小道具・大道具は使用不可 演技時間の80%以上はメンバー全員でポンを使用すること ※【補足】②参照
	Hip Hop部門 Jazz部門	ポン・手具・小道具・大道具は使用不可 衣装の一部（ネックレス、ジャケット、帽子などのアイテム）の使用は可。※ステッキ・傘・扇子などは使用不可 衣装の一部は取り外して使用し、捨てることも可能だが、選手を床から持ち上げるために使用することは不可
	Spiritleading部門	自由とする。自立する大道具に体重を乗せる事は可、それ以外の小道具、大道具に完全に体重を乗せる事は不可 また、演技中に使用する全ての手具・道具は、選手自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない
2.ラインワーク	【該当】 Song/Pom部門	ラインワーク・キックラインの実施は必須ではない
3.セーフティ	<p>① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止</p> <p>② 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること 但し、硬いギブス（石膏やグラスファイバーなどの添木など）や、ウォーキングブーツを装着している出場者は、他の出場者を傷つけたり怪我を負わせる可能性のある振付けに参加することは不可</p> <p>③ 手に全体重をあげる動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転）</p> <p>④ 立位・逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと</p> <p>⑤ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと 但し、ジャンプ・空中に浮いた際の手の位置が腰レベルより下の場合に限り、手（片手含む）からの着地が可能。後方への進入は不可（ダブルシフトは実施可。シュシュノバのバリエーションは全て禁止）</p>	
4.個人で 実施するもの タンプリングは ＜有効技＞ に限り 実施できるが 必須ではない 実施の際は 右記①～③を 遵守すること	<p>① 静止・歩行から実施可（走り込み・飛び込みからは不可 ※例外ロンダート /テクニックスキルとの連続実施【補足③参照】は不可）</p> <p>② タンプリングは単発・タンプリング同士のコンビネーションは実施可</p> <p>③ タンプリングをしている選手の上や下を、タンプリングしながら通過・越えることは禁止 ※有効技は片手での実施も可 ※手具を持った手に全体重をあげる動作は、セーフティ違反になるので注意（前転・後転は持ったまま実施可）</p>	
	Song/Pom部門	＜有効技＞ 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前方/後方転回 ＜禁止技＞ 上記以外全て ※【補足】④参照
	Spiritleading部門	＜有効技＞ 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前方/後方転回 ロンダート、キップアップ、ストール、ウインドミル ＜禁止技＞ 上記以外全て ※【補足】④参照
	Hip Hop部門 Jazz部門	＜有効技＞ 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、前方/後方転回 ロンダート、キップアップ、ストール、ウインドミル、マカコ、スワイプス、トーマスフレア ＜禁止技＞ 上記以外全て ※【補足】④参照
5.グループ/ペア で実施するもの ダンスリフト パートナーリング	<p>① 演技フロアに体の一部が触れている状態で、人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可</p> <p>② ダンスリフト（他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作）は実施不可</p> <p>③ 人に体重をかけて演技フロアから完全に離れる行為（背中を転がる・人の上に乗るなど）は、下記の条件を満たしている場合のみ実施可だが、推奨はされない</p> <p>a. 補助されず自力で行う事</p> <p>b. フロアから離れた状態で、動きを止めない事（人にしがみついたまま、乗ったままの状態などは不可）</p> <p>c. 演技フロアに着地するまで体重をかけている相手と触れ続ける事</p> <p>※ポンや手具を持った手に全体重をあげる動作は、セーフティ違反になるので注意</p>	

【 補 足 】

①ポンについて	Song/Pom部門、Pom部門では、ポンは衣装の一部とみなされる ＜ポン定義＞手で操作できる球状または房状のもの、肌等を傷つけない安全な素材であること
②ポンの使用時間	1名でもポンをおいた場合は、ポンを持っていない時間・カウントとして数えられる （但し、片方だけ置き、片方は使用している場合はポンを持っているとみなす）
③連続実施の定義	1つ目のテクニック・スキルが終了する前に他のテクニック・スキルにつなげたり、1つ目のテクニック・スキルの終了/着地が、2つ目のスキルの踏み込みとなる場合は連続とみなす、但し、2カウント以上カウントが空く場合は連続とは見なさない
④タンプリング禁止技	有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技 ＜例＞ 前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り、飛び込み前転、側方宙返り、ヘッドスプリングなど

< 演技規定 > 大学編成

Pom部門・Hip Hop部門・Jazz部門・Spiritleading部門

Pom部門は夏の大会に限り難度別が適用されますので
P.11 ダンステクニック・スキル・タンブリング 実施可能レベル一覧を必ずご確認ください

項 目	内 容	
1.手具・道具	Pom部門	ポンのみ使用可（男性は必ずしも持つ必要はない）※【補足】①参照／ボン以外の手具・小道具・大道具は使用不可 演技時間の80%以上はメンバー全員でボンを使用すること ※【補足】②参照
	Hip Hop部門 Jazz部門	ボン・手具・小道具・大道具は使用不可 衣装の一部（ネックレス、ジャケット、帽子などのアイテム）の使用は可 ※ステッキ・傘・扇子などは使用不可 衣装の一部は取り外して使用し、捨てることも可能だが、選手を床から持ち上げるために使用することは不可
	Spiritleading部門	自由とする。自立する大道具に体重を乗せる事は可、それ以外の小道具、大道具に完全に体重を乗せる事は不可 演技中に使用する全ての手具・大道具は、選手自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない
2.セーフティ	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること 但し、硬いギブス（石膏やグラスファイバーなどの添木など）や、ウォーキングブーツを装着している出場者は、他の出場者を傷つけたり怪我を負わせる可能性のある振付けに参加することは不可 ③ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転）	
3.個人で実施するもの タンブリング & ストリート スタイルスキル これらは 実施できるが 推奨されない 実施の際は 右記を遵守すること	① 逆さまになる技： a) 空中に浮かないものは実施可（例：頭支持倒立） b) 手の支持の有無にかかわらず、空中に浮く技で完全に逆さまになる技については、後方にアプローチすることは不可 ② 腰が頭を超える回転を含む技： a) ボンや手具等を支持する手で持っている状態での体の支持は不可（例外：前転/後転は可） b) 空中に浮かないものは3つ連続の技まで実施可（例：3回連続の側転は可、4回連続は不可） c) 空中に浮く技で、手の支持がある技は以下の場合には実施可 i. アプローチは空中に浮かないが、下降する際に空中に浮く場合がある技 （解説：ロングアートは可。アプローチにおいて、足が床を離れる前に、着手しなければならない） d) 空中に浮く技で手の支持のない技は実施不可 （例外：側方宙返り/サイドソムは他の腰が頭を超える回転を含むスキルに連続しない限り実施可） i. ダンサーがボンを持っている手を演技フロア上に着いて体重を支えた場合減点となる ③ 腰が頭を超える姿勢での回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ④ 膝、腿、背中、肩、座位、うつぶせ、頭で、完全に空中に浮いた状態から演技フロアへ着地する場合、衝撃を抑えるため、片手、または片足に先に体重が乗るように実施すること ⑤ 脚が体の前方にあるジャンプの状態から、脚を後方に動かして演技フロアに腕立て伏せ姿勢で着地することは不可 全ての種類のシュシュバは実施不可	
4.グループ/ペアで実施するもの リフト& パートナーリング ・ ディスマウント これらは 実施できるが 推奨されない 実施の際は 右記を遵守すること	① 体重を主に支えているサポートダンサーは、リフトやパートナーリングを行っている間は演技フロア上に直接触れていること （例外：キックラインリブ・パートナーリングでの側転・パートナーリングでのキップアップは実施可） ② 肩の高さより上で実施する際は、支えているダンサーの少なくとも1名は、動作を行うダンサーが演技フロアに戻るまで接してはならない ③ 動作を行うダンサーの腰が頭を超える回転は、以下の場合に実施可： 少なくとも1名の支えるダンサーは、動作を行うダンサーが演技フロアに戻るまで、もしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間支え続けること ④ エレベーター、サイスタンド、肩車、チェアシートは実施可、エクステンション、ピラミッド、バスケットスは実施不可 ⑤ 動作を行うダンサーが倒立姿勢の場合は、以下の場合に実施可： a) 倒立するダンサーが倒立状態を終えて床につくまでもしくは頭を上にした垂直姿勢に戻るまでの間、最低1名のダンサーが支え続けること b) 倒立するダンサーの肩の位置が、直立姿勢の肩の高さを超えるばあい、体重を支えるダンサー以外に少なくとも追加1名のスポットがつくこと （3名のダンサーで支えている場合は不要） <演技フロアへの補助のないディスマウント> ① サポートダンサーから、ジャンプ/リブ/ステップ/プッシュオフなどで離れる動作は、以下の場合に実施可 a) 離れた後の最高点において、実施するダンサーの一部が、直立姿勢での頭の高さを超えてはならない b) 離れた後、空中かつ/又は逆さま状態の間は、実施するダンサーの腰が垂直に上下してはならない c) トーピッチは実施不可 ② サポートダンサーは以下の場合実施するダンサーをトスすることができる： a) 離れた後の最高点において、実施するダンサーの一部が、直立姿勢での頭の高さを超えてはならない b) トスされたとき、実施するダンサーがうつ伏せ又は逆さまの状態でも必ず片足/両足で着地しなくてはならない c) 離れた後、空中かつ/又は逆さま状態の間は、実施するダンサーの腰が垂直に上下してはならない d) トーピッチは実施不可	
【補足】	①ボンについて	Song/Pom部門、Pom部門では、ポンは衣装の一部としてみなされる <ボン定義> 手で操作できる球状または房状のもの、肌等を傷つけない安全な素材であること
	②ボンの使用時間	1名でもボンをおいた場合は、ボンを持っていない時間・カウントとして数えられる （但し、片方だけ置き、片方は使用している場合はボンを持っているとみなす）



A VARSITY SPIRIT BRAND

《夏の大会のみ実施》

ダンステクニク・スキル 実施可能レベル一覧

参照部門：Song/Pom部門
Pom部門

※地区大会(USA Regionals)及び全国選手権大会(USA Nationals)では難度別の実施はありません

ダンステクニック・スキル・タンブリング 実施可能レベル一覧

【青字】1.4版(2022.10月)からの変更・追加

【赤字】1.5版(2023.5月)からの変更

該当部門： 中学校編成・高等学校編成 Song/Pom部門 ・ 大学編成 Pom部門

※該当部門に出場の際は、チームのレベルに合った難度を選択し、内容を遵守して構成すること

- ◆競技規定・演技規定に加えて、ダンステクニック・スキル・タンブリングは記載レベル以下の構成とすること（必須項目ではない）
- ◆記載内容から外れた実施に対しては、1か所につき1点が減点される

<<< テクニック・スキルの連続実施の定義 >>>

1つ目のテクニック・スキルが終了する前に他のテクニック・スキルにつなげたり、1つ目のテクニック・スキルの終了/着地が、2つ目のスキルの踏み込みとなる場合は連続とみなす、但し、2カウント以上カウントが空く場合は連続とは見なさない

1. Novice < ノービス/初級 >

項目	内容
ターン	① シェネターン（4カウントまでを1回と計測） ② シングルピケターン（パッセ・クッパポジションのみ） ③ シングルピルエット（パッセ・クッパ・ペンシル・アチチュードポジションのみ） ※ターンシークエンスはIntermediteより実施可
ジャンプ/リープ	① 踏切りの際に体の面を切り替えないジャンプ/リープ ② 体に対して前方向に進み、脚のポジションが変わらないリープ（例：セカンドリープ・スイッチリープなどは不可）
複合スキル	① ソデバスク
タンブリング	① 前転 ② 後転 ③ ショルダーロール
その他の行為	① キック全般 ② レッグホールド（フロント/サイド/アラバスクのみ可） ※レッグホールドは持つ手が足と同じ側の片手である事、また、脚のポジションを変えることはできない（例：フロントからY字などは不可）
テクニック・スキルの連続について	
1) 同一項目内のテクニック・スキルの《連続実施》は、2連続まで可（例：「ジャンプ+ジャンプ」「ジャンプ+リープ」など） ※ラインワーク・キックラインでのキック連続実施については、上記の連続実施制限に含まれない	
2) 他項目との組み合わせの連続実施は不可（ターンからのリープや、ターンからのソデバスクなどの連続実施は禁止）	

2. Intermediate < インターミディエイト/中級 > Noviceレベルに加えて下記が実施可能

項目	内容
ターン	① シングルピルエット/シングルピケターン（脚のポジションは不問） ② ダブルピルエット（パッセ・クッパ・ペンシルポジションのみ、実施後は両足を床につけること） ③ ダブルピケターン（パッセ・クッパポジションのみ） ④ ターンシークエンスは各8カウントまで実施可（フェットターン、セカンドターン、ピルエットで構成されていること・スポットチェンジ不可） ※プレパレーション動作は含まず、動かす脚（ロンデ）が2番ポジションに開いたところから計測する ※実施回数は演技を通して最大2箇所までとする ※ターンシークエンス内のピルエットはパッセ・クッパ・ペンシル・アチチュードポジションのみ ※ターンシークエンス中に動かす脚に触れる/持つことはできない ※ターンシークエンスを終了する前に、最後のターンからすぐに他のスキルをつなげたり実施することは不可
ジャンプ/リープ	① 踏切りの際に体の面が切り替わるジャンプ/リープ（例：バックジュツテ） ② 体に対して前以外の方向に進むリープ（例：セカンドリープ） ③ 回転から始まるリープ/ジャンプ（例：カリブソ） ※スイッチリープはAdvanceより実施可
複合スキル	① 回転からのロンドジャンプ（立位の体勢で着地すること） ② アクセルジャンプ
タンブリング	① 側転 ② チェストロールダウン ③ 倒立 ④ 頭支持倒立 ⑤ 立ブリッジ ※前方/後方転回はAdvanceより実施可
その他の行為	① レッグホールド（両手・逆手可/スコピオンなど、また、脚のポジションを変えることも可能） ※レッグホールドターンはAdvanceより実施可 ② イリュージョン ③ イタリアンフェットは2周まで実施可 ※実施回数は演技を通して1箇所までとする
テクニック・スキルの連続について	
1) 同一項目内のテクニック・スキルの《連続実施》は、2連続まで可（例：「ジャンプ+ジャンプ」「ジャンプ+リープ」など） ※ターンシークエンス・イタリアンフェットは、同一項目・他項目ともに《連続実施》は不可	
2) シングルピルエットに限り、ターン以外の項目との《連続実施》を認める（例：シングルピルエット+ジュツテなど）	

3. Advance < アドバンス/上級 > ※ダンステクニック・スキルの制限はなし



A VARSITY SPIRIT BRAND

審査対象外部門

- Half-Time USA
- Show-Time USA

審査対象外部部門

1. 出場について

- 1) 出場の際は、大会参加指針及び大会参加同意内容を理解し参加するものとする
- 2) Half-Time USA（夏の大会、地区大会）は、学校団体チームは学校団体実施日にエントリーしてください
- 3) 各大会の詳細に関しては、必ず開催要項をご確認ください

2. ルールについて

- 1) 審査対象外部部門は下記の通り2分される
 ①Half-Time USA（夏の大会、地区大会で実施） ②Show-Time USA（全国選手権大会で実施）
- 2) 上記①、②いずれも、演技内容全般については競技規定（P4-6）に準ずるものとする
- 3) 審査対象外部部門の演技規定については、以下参照

3. 演技規定

<演技規定> ① Half-Time USA（夏の大会、地区大会で実施）

Half-Time USAでは、年齢に関わらず下記に従って実施すること

項目	内容
1.手具・道具	自由とするが、演技中に使用する全ての手具・大道具は、選手自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない
2.構成	自由とする（但し、以下タンブリング・スタンツ・ダンスリフトの内容は遵守すること）
3.セーフティ	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギプス・コルセットをする際は適切な素材でカバーすること ③ 手に体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転） ④ 自立する大道具に体重を乗せる事は可、それ以外の小道具、大道具に完全に体重を乗せる事は不可 ⑤ 立位、逆さの体勢やターンから、膝・腿・座位・うつぶせ・仰向け・スプリットポジションの姿勢になる場合は、少なくとも片手または片足に先に体重が乗るように行うこと ⑥ ジャンプ・空中から演技フロアへ着地する場合は、少なくとも片足に先に体重が乗るように行うこと 但し、ジャンプ・空中に浮いた際の手の位置が腰レベルより下の場合に限り、手（片手含む）からの着地が可能。後方への進入は不可（ダブルシフトは実施可、シュシュノバのバリエーションは全て禁止）
4.個人で実施するもの タンブリング <有効技>に限り 実施可だが 必須ではない 実施の際は 右記を遵守すること	① 静止・歩行から実施可（走り込み・飛び込みからは不可 ※例外ロンダート／テクニクスキルとの連続実施は不可） ② タンブリングは単発・タンブリング同士のコンビネーションは実施可 ③ タンブリング中の人の上や下を、タンブリングしながら通過するのは禁止 <有効技> 前転、後転、ショルダーロール、側転、チェストロールダウン、倒立、頭支持倒立、立ちブリッジ、 前/後方転回、ロンダート、ストール、キップアップ、マカコ ※有効技は片手での実施も可 ※手具を持った手に全体重をあずける動作は実施不可（前転・後転は持ったまま実施可） <禁止技> 上記以外全て ※【補足】②参照
5.グループ/ペアで 実施するもの ダンスリフト パートナーリング	① 演技フロアに体の一部が触れている状態で、人に体重を預ける・寄りかかるなどは実施可 ② ダンスリフトの実施不可（他者を持ち上げる・下ろす、または他者に持ち上げられる・下ろされる動作） ③ 人に体重をかけて演技フロアから完全に離れる行為（背中を転がる・人の上に乗るなど）は、下記の条件を満たしている場合のみ実施可だが、推奨されない a. 補助されず自力で行う事 b. フロアから離れた状態で、動きを止めない事（人にしがみついたまま、乗ったままの状態などは不可） c. 演技フロアに着地するまで体重をかけている相手と触れ続ける事 ※Pom・手具を持った手に全体重をあずける動作は、セーフティ違反になるので注意

【補足】 ①タンブリング禁止技 有効技以外の全てのアクロバティック・体操的な技
 <例> 前方・後方倒立回転跳び、前方・後方宙返り（伸身含）、飛び込み前転、側方宙返り、ヘッドスプリングなど

<演技規定> ② Show-Time USA（全国選手権大会で実施）

Show-Time USAにおいては、競技部門に則った演技規定とする
 メンバーの年齢や演技構成に関しては、全ての編成・部門が該当する

◆MEMO◆



主催：一般社団法人Cheer & Dance Education
United Spirit Association, Japan

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-8 トミビル3 3F

A VARSITY SPIRIT BRAND

TEL : 03-5216-5545 FAX : 03-5216-5546 URL : <https://www.usa-j.jp/>